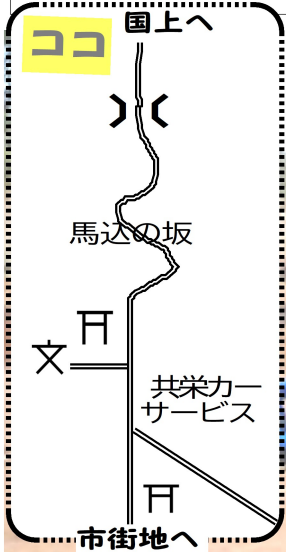


しものだいらいせき
◎下之平遺跡

上西だより

～上西校区集落支援員だより～

西之表市地域支援課
上西集落支援員
馬場 信一 編集
連絡先090-9579-3953
上西校区長責任発行



4月6日（水）午後10時からNHKテレビ番組『歴史探偵』で冒頭に種子島の下之平遺跡の発掘現場が放映されました。

下之平遺跡はどのような価値があるのでしょうか？『歴史探偵』と埋蔵文化財調査センターでの取材を元に一部紹介します。



遺跡発掘の様子

私は教え子に縄文時代は「食料を探して住居を移動し、狩猟生活…」と教科書や資料集を使って教えてきたのですが、現在では研究が進み、縄文人の生活イメージは大きく変わりました。



黒曜石の矢じり

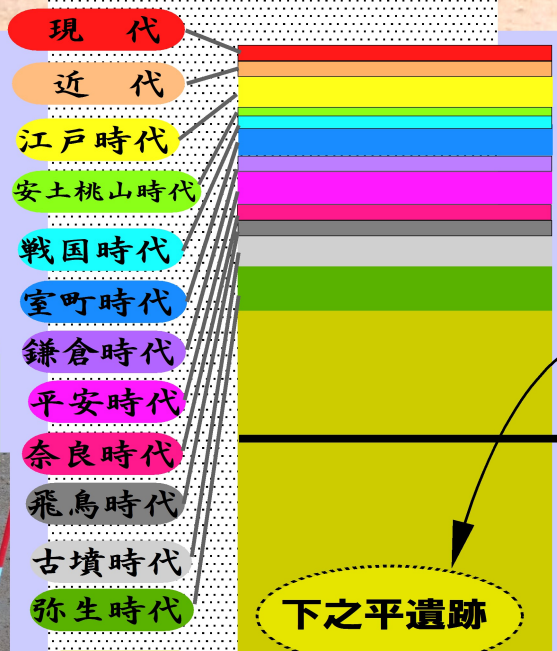
黒曜石を割るとガラスのように割り口は鋭くなります。矢の先や動物を切り裂くナイフとして加工されました。

しかし、黒曜石は元々種子島にはないので本土から持ち込まれた。つまり1000年前本土と交流があったと言えます。

2000年前 下之平遺跡は約7,400年～7,800年前の人々が生活していた跡です。ここで石器を加工したり、実をつぶして食べたりしました。また食料を蒸した跡も分かりました。そのことからここで定住生活をしていただと考えられます。

10000年前 しかし7,400年前に海底火山が大噴火して、大量の火山灰が降り注ぎました。そのため、当時の生活の様子がそのまま残されました。これが下之平遺跡です。

縄文時代は長かった



縄文時代

縄文まな板↓（命名は馬場）
下の写真にはないが、近くには握りこぶし大の球体の石がある。これらで木の実をつぶしていた。



縄文蒸し器↓（命名は馬場）
食料を葉っぱで巻いて焼いた石の上に置いた。赤茶色の石は熱によって変色した。



海底火山灰の堆積のあと→
黒土の下部
赤茶色の部分